

2017年3月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時
2017年3月4日(土) : 10:00~17:00

2. 開催場所
中部品質管理協会

3. 参加者<敬称略>出:出席、欠:欠席、書:書記、

井上	出	大見	出	牧野	出	横尾	出	山口	出	杉浦	出	佐藤	欠	三浦	出	出島	出
則尾	欠	伊藤	出	舟山	欠	城越	書	石上	出	中山	欠	合田	出	岡田	欠		

4. 研究会のテーマ (敬称略)

① 輪講 …第3編 品質工学とマネージメント 第9章 2種類の信号因子:石上さん

能動的信号因子…人による意図が働き、その後信号因子を「人がシステムに」入力する
ノイズ因子の選択について議論。ランダムに選ぶと再現性が悪い
受動的信号因子…明るさに対するカメラの絞り(絞り値が信号因子)
フィードバック…外界の光量によって絞りをフィードバックかける…能動的信号因子として理解できる

② テーマ … I T E Q ホームページを問合せしなくなる内容にしたい:伊藤

今回のテーマは品質工学と関係ないが、多種多様な業種が集まる研究会会員に協力いただき
ホームページを見やすく問合せしやすくするための、企業の立場ならではの貴重なアドバイスをたくさんいただいた。
良く使う検索エンジン、企業で旬なキーワード、見やすい構成、逆に問合せしなくなるホームページ例など…
今回のアドバイスをもとに、可能な部分はすぐにでも反映する。

5. 分科会発表 (敬称略)

① 「A R R T法の研究と活用」

メンバー:井上(リーダー)、出島、牧野、山口、舟山
主成分分析を続けることによる「項目落ち」を避けるテクニック…残存率を望小特性のSN比を用いこれ以上ダメというところを判別できる
項目数>データ数の場合もMT法と違い制約を受けない
異常成分は高次の成分で顕在化する…RT法で数値化してOK
多重共線性のある(相関係数が0.96以上が23組存在する)データでも計算できる
基準化するので次元・単位を気にせずに扱える

② 「L 1 2 近直交表の理解と利用」

メンバー:杉浦(リーダー)、佐藤、横尾、大見
分科会の成果はL12のソフトの検証を行い問題ないことを実証したこと

③ 「バーチャル設計の活用と意義」

メンバー:三浦(リーダー)、則尾、伊藤
勘と経験と想像力をいかに操作するかとの考えから始まる
QFDとの違いは何か? QFDの方が異端意見も取り入れるので良いのでは
はみがき論文では実際に作った際にはどうだったかの検証が見当たらない…実際物で確認実験での検証結果が含まれる事例はどれだけあ
取り組み事例では教育の側面もある

④ 「エネルギー型SN比の理解と実践」

メンバー:城越(リーダー)、石山、舟山、合田
前田氏は鶴田氏がエネルギー比型SN比を発表する前に論文を発表していた。
データの形態によりSN比計算の方法は変える必要があるが、煩雑なので万能なのはエネルギー比型SN比で有効成分計算、
有害成分は各データから傾き平均×各信号因子を引いた値の2乗和とし計算が良い(分科会の成果)

※ 全体として…発表に向け、事例取組を行い今後の各分科会活動をしてはどうか

6. 総会

副会長は置かない
幹事…合田さん、城越
宴会幹事…大見さん
ゴルフ幹事…牧野さん
★特別顧問、田口伸さんは本人に打診(井上社長)

7. 事務局連絡

なし

8. 分科会

① 「エネルギー型SN比の理解と実践」

メンバー:城越(リーダー)、石山、舟山、合田

② 「L 1 2 近直交表の理解と利用」

メンバー:杉浦(リーダー)、佐藤、横尾、大見

③ 「バーチャル設計の活用と意義」

メンバー:三浦(リーダー)、則尾、伊藤

④ 「A R R T法の研究と活用」

メンバー:井上(リーダー)、出島、牧野、山口、舟山

9. 次回案内

日時：2017年4月01日（土） 10：00－17：00

場所： アイテックインターナショナル本社

※ 田口伸さん、武重さん、講演2件

※ 懇親会あり

10. 次期分科会のネタが井上社長から示された

ディープラーニングとMT

応答曲面法にロバストデザインを追加

APRT法ステージ2

以上